

利尻島における鳥類の新分布および稀少種の記録 (2009 年)

田牧和広¹⁾・佐藤雅彦²⁾・小杉和樹³⁾

¹⁾ 〒097-0211 北海道利尻郡利尻富士町鬼脇字清川

²⁾ 〒097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町 利尻町立博物館

³⁾ 〒097-0401 北海道利尻郡利尻町杓形字富士見町

Rare Visits and Newly Recorded Birds from Rishiri Island, Northern Hokkaido in 2009

Kazuhiro TAMAKI¹⁾, Masahiko SATO²⁾ and Kazuki KOSUGI³⁾

¹⁾Kiyokawa, Oniwaki, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0211 Japan

²⁾Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan

³⁾Fujimi-cho, Kutsugata, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0401 Japan

Abstract. Five notable bird species were observed at Rishiri Island, northern Hokkaido in 2009. Among them, the following four species are newly recorded from the island: *Gallinago solitaria*, *Carpodacus erythrinus*, *Dendronanthus indicus* and *Calidris ferruginea*. There are a few old records of great reed warbler, *Acrocephalus arundinaceus*, from Rishiri Island. Although no observations or specimens had been recorded since 1968, new observations were made and a vehicle-killed specimen of this species was obtained in 2009.

2009年に筆者らによって観察された利尻島未記録種4種と近年観察のなかった1種の再確認について報告する。観察記録は、観察場所、観察年月日、観察者、個体数の順に記し、種の配列、和名及び学名については、日本鳥類目録編集委員会(2006)に従った。

サルハマシギ (Fig. 1)

Calidris ferruginea (Pontoppidan, 1763)

【利尻町杓形字栄浜】2009.ix.9, 田牧和広, 1

海岸に打ち上げられた海藻類の中から頻りに採餌している1羽を、車中から10m~20mほどの距離で観察した。トウネン1羽、イソシギ2羽、ハクセキレイ数羽と行動を共にしていた。大きさはハマ

シギと同程度に見え、先端に向かって湾曲する嘴と脚は黒色であった。この個体は頭部から胸にかけ黄褐色が強く、白い眉斑があり、眼先は暗色で、肩羽と雨覆は灰褐色、バフ色の羽縁と黒褐色のサブターミナルバンドが見られたことから、サルハマシギの幼鳥と思われた(氏原・氏原, 2004)。本種は日本では旅鳥として干潟、水田、河口等に渡来するが(真木・大西, 2000)、これまで利尻島では記録のなかった種である(小杉, 2000, 2008)。

アオシギ (Fig. 2)

Gallinago solitaria Hodgson, 1831

【利尻富士町鬼脇】2009.v.4, 田牧和広, 1

鬼脇小学校校庭のエゾマツの根元のササ藪から歩

きながら姿を現し、観察していた車からおよそ 20 m の場所で立ち止まり、約 1 分間、同じ姿勢をとっていたが、ササ藪に飛んで隠れてしまった。大きさや形はタシギに似ていたが、顔や体下面の白色部分がうっすらと青灰色を帯びていた。背から上面は黒褐色、褐色、白色の細かな模様で覆われ、背と肩羽の羽縁が 2 本の線となって見えた。嘴は長くまっすぐに伸び、足は黄緑色であった。これらの特徴からアオシギと判断した。アオシギは、日本では冬鳥として渡来し、河川、溪流に生息するが（真木・大西、2000）、これまで利尻島では記録のなかった種である（小杉、2000、2008）。なお、2000 年に礼文島で保護された後死亡したアオシギの仮剥製標本が利尻町立博物館に保管されている（標本番号 RTMB257）。

イワミセキレイ (Fig. 3)

Dendronanthus indicus (Gmelin, 1789)

【利尻富士町沼浦】2009.v.20, 田牧和広, 1

利尻島南部のオタドリ沼遊歩道の北東側で、ジグザグに歩きながら移動している 1 羽を観察した。発見時は、20m 程の距離があり、時々虫と思われる餌をついばんでいたが、人の気配に気づき歩道脇の針葉樹林内に移動して見えなくなった。他のセキレイ類とは異なり、尾を左右に振るのが確認できた。本個体はハクセキレイに似ているが多少小型に感じられ、頭部から上尾筒までは緑灰色、眉斑は黄褐色、初列雨覆、中雨覆、大雨覆のそれぞれは黒色で、その先端は白色であった。白色の胸には特徴的な T 字型と中央で切れる黒帯（真木・大西、2000）が確認できたことからイワミセキレイと判断した。イワミセキレイは数少ない旅鳥として日本海側の島嶼にて観察されているが（真木・大西、2000）、これまで利尻島では記録のなかった種である（小杉、2000、2008）。

オオヨシキリ (Fig. 4)

Acrocephalus arundinaceus (Linnaeus, 1758)

【利尻富士町沼浦】2009.v.16-17, 田牧和広, 1,

2009.v.18, 田牧和広, 2, 2009.v.20, 田牧和広, 2
【利尻富士町金崎】2009.v.20, 田牧和広, 1（落鳥個体）

利尻島におけるオオヨシキリの記録は、筆者らの知る限りでは、西村（1963）が最初と思われる。西村（1963）によると、本種は 5 月中旬～10 月下旬まで渡来し、繁殖を確認しているとしているが、具体的な観察については記していない。また、中西（1966）は高野伸二氏による 1965 年における利尻島内の観察記録を一覧表として掲載しており、そこにオオヨシキリが挙げられている。さらに同年、動植物調査に来島した東京農業大学第一高等学校の報告によると「姫沼竹林中にてさえずりを聞く」とあるものの、目視については記述が無い（夏目、1968）。以上、筆者らが知る限り上記 3 例が文献上に残された利尻島におけるオオヨシキリの記録と考えられるが、いずれも具体的な記録や証拠となる写真や標本が残されていない。さらに、これらの記録を裏付ける新たな観察例が近年はなく、本種の利尻島における分布についてはその再確認が課題とされていたが、筆者の一人である田牧は 2009 年 5 月 18 日にオタドリ沼西側遊歩道約 100m に渡りヨシとササが密生する場所で、ササの茂みや低木の梢、ヨシと器用に移動を繰り返す 2 個体を観察した。

さらに、2009 年 5 月 20 日には利尻島南部の金崎地区の道路上で落鳥個体を発見した。この個体は、腰に外傷がみられ、尾羽も 3 枚しか残っておらず、交通事故により落鳥したものと推測され、後の解剖で雄成鳥であることが確認された。計測値等は以下のとおりで、標本は利尻町立博物館にて保管されている。

標本番号	RTMB444
全長	163 (mm)
尾長	66.5
体重	26 (g)
露出嘴峯長	17 (mm)
最大翼長	85
跗蹠長	30



Figures 1-5. Birds recorded from Rishiri in 2009. 1: *Calidris ferruginea* (2009.ix.9), 2: *Gallinago solitaria* (2009.v.4), 3: *Dendronanthus indicus* (2009.v.20), 4: *Acrocephalus arundinaceus* (2009.v.20), 5: *Carpodacus erythrinus* (2009.v.20).

精巢 4×8
備考 胃内容物として鞘翅目・膜翅目の破片などが確認された。

これらの確認により、オオヨシキリが約40年ぶりに利尻島で再確認されたこととなった。なお、目視で観察した個体は、いずれも頭部および背にかけてオリーブ褐色、眉斑は細く淡褐色、腹部下面は淡

褐色で、胸には細く黒い縦斑が見られた。標本個体では上嘴は黒色、下嘴は橙色であり、はっきりと嘴毛が確認できた。

アカマシコ (Fig. 5)

Carpodacus erythrinus (Pallas, 1770)

【利尻富士町鬼脇】2009.v.20, 田牧和広, 3

【利尻町杵形字浜浜】2009.v.20, 佐藤雅彦・佐藤

里恵, 1

2009年5月20日午前4時50分頃、筆者の一人である田牧が鬼脇地区の保育所と民家の間にある畑で聞き慣れない鳴き声を聞き、畑の中に本種1羽を確認した。その後、飛び立った時に付近の立木からさらに2羽が飛び立ち、計3羽を確認した。これらの個体の嘴は短く、やや色あせた黒灰色で、尾は黒褐色で凹尾が確認出来た。また、頭部から上面、腰にかけてはオリーブ褐色、胸には黒の淡い縦斑が確認できた。大・中雨覆の羽先に淡色の2本の翼帯が見られ、成鳥雄に見られる頭部と胸の赤色がなかったことからアカマシコの雌と判断した(真木・大西, 2000)。この観察後、午前6時45分頃に、直線距離にして約15km離れた栄浜地区でも本種の雌1羽が民家庭のチシマザクラの花をむしっているのが観察され、複数のアカマシコが利尻島に飛来していたことが確認された。本種は、日本では数少ない旅鳥として日本海の島嶼で観察され、平地の林、草地などに生息するが(真木・大西, 2000)、これまで利尻島では記録のなかった種である(小杉, 2000, 2008)。

参考文献

藤巻裕蔵, 2000. 北海道鳥類目録 改訂2版. 帯広畜産大学野生動物管理理学研究室. 83 pp.

- 五百沢日丸・山形訓男・吉野俊幸, 2000. 日本の鳥 550. 山野の鳥. 文一総合出版. 359 pp.
- 叶内拓哉, 1998. 日本の野鳥. 山と溪谷社. 624 pp.
- 桐原政志・山形則男・吉野俊幸, 2000. 日本の鳥 550. 水辺の鳥. 文一総合出版. 352 pp.
- 小杉和樹, 2000. 利尻島における月別鳥類出現リスト. 寺沢孝毅(編), 北海道 島の野鳥. 150-155 pp. 北海道新聞社. 札幌.
- 小杉和樹, 2008. 利尻島の野鳥リスト. 利尻島自然情報センター. 自刊.
- 真木広造・大西敏一, 2000. 日本の野鳥 590. 平凡社. 655 pp.
- 夏目道生, 1968. 利尻島での鳥類観察記. 中村武久(編), 利尻島動植物調査の記録: 92-95. 東京農業大学第一高等学校.
- 中西悟堂, 1966. 火の島利尻・花の島礼文. 野鳥, (236): 73-93.
- 日本鳥類目録編集委員会, 2000. 日本鳥類目録. 改訂第6版. 日本鳥学会, 京都. 345 pp.
- 西村 弘, 1963. 利尻. 礼文島野鳥棲息状況調査記録. 23 pp. 自刊.
- 高野伸二, 2007. フィールドガイド日本の野鳥. 増補改訂版. 日本野鳥の会. 374 pp.
- 氏原巨雄・氏原道昭, 2004. シギ・チドリ類ハンドブック. 文一総合出版. 66pp.